

平成30年度
豊田スタジアムを生かした
まちづくり特別委員会

調査研究結果報告書

世界一熱いラグビーを届けよう。
TRYforALL
AICHI・TOYOTA

愛知県・豊田市
地元キャッチフレーズ・ロゴ

平成30年12月
豊田市議会

【目 次】

1 設置の経過	1
2 調査研究事項	2
3 委員会等開催状況と内容	3
4 調査研究結果	4
5 市議会としてのラグビーワールドカップ 2019™大会に向けたPR活動について	8
6 提言	9
7 おわりに	13

平成30年12月11日

豊田市議会議長
鈴木 章 様

豊田スタジアムを生かした
まちづくり特別委員会
委員長 神谷和利

豊田スタジアムを生かしたまちづくり特別委員会調査研究結果

平成30年度報告書

本委員会は、平成27年5月15日の本会議において設置されて以来、委員会の設置目的を達成するため、調査研究を進めてきた。

以下に、平成30年度の活動についてその結果を報告する。

記

1 設置の経過

(1) 平成27年3月2日、2019年（平成31年）に日本で開催されるラグビーワールドカップ™の開催自治体の一つに豊田市が決定された。

そして、平成27年5月15日の本会議において、大会会場となる「豊田スタジアム」を生かしたまちづくりについて、市議会で調査研究を行うために本委員会が設置された。

(2) 平成30年度は5月16日の本会議において、次の通り、11名の委員が選出された。

浅井保孝 安藤康弘 岩田 淳 神谷和利 北川敏崇 木本文也
作元志津夫 清水郁夫 田代 研 山口光岳 吉野英國

(3) 同日開催された委員会において、委員長に神谷和利、副委員長に安藤康弘をそれぞれ互選した。

2 調査研究事項

(1) 設置目的（平成27年度から引き続き）

ラグビーワールドカップ2019™の国内会場の一つである豊田スタジアムを生かし、本市として大会成功、広域スポーツ振興、地域活性化に寄与し、国際都市としての更なる飛躍、発展等を目指し調査・研究を行う。

(2) 調査研究事項（平成30年度）

- ・ラグビーワールドカップ™大会後のスタジアム活用策（レガシー）
- ・ラグビーワールドカップ2019™大会に向けたさらなる機運醸成策
- ・特別委員会の4年間の活動総括

(3) 調査期間

平成30年5月16日～平成30年11月29日

ラグビーワールドカップ2019™日本大会の概要

4年に一度行われるラグビーワールドカップ。世界三大スポーツイベントの一つといわれており、日本大会は、2019年9月20日から11月2日にかけて、日本国内の12会場を舞台に熱戦が繰り広げられる。全会場で約200万人の来場者が予想されており、そのうち40万人が海外からの来訪者と見込まれている。

【豊田スタジアムで開催される対戦カード】

- ① 9月23日(月) ウェールズ 対 ジョージア
- ② 9月28日(土) 南アフリカ 対 ナミビア
- ③ 10月 5日(土) 日本 対 サモア
- ④ 10月12日(土) ニュージーランド 対 イタリア



国内12会場の一つ「豊田スタジアム」

3 委員会等開催状況と内容（平成30年度分）

回	期　日	内　容
1	5月16日（水）	・正副委員長の互選について
2	6月 4日（月）	・調査研究テーマについて ・年間活動スケジュールについて ・行政視察日程について ・ラグビーワールドカップ2019に向けたPR活動について
3	7月 3日（火）	・他市の取組状況について ・ラグビー日本代表戦の状況(速報)について
4	8月 3日（金）	・執行部からのヒアリングを実施 経営戦略部より、ラグビーワールドカップ2019大会に向け 都市整備部より、中央公園第二期整備について
5	8月23日（木）	・委員の派遣について ・視察先情報について ・平成27年度からの提言内容について ・ラグビーワールドカップ2019PR活動について
—	9月26日（水） ～28日（金）	・行政視察の実施 ①静岡県袋井市 エコパスタジアム ②岩手県釜石市 釜石鵜住居復興スタジアム ③宮城県仙台市 七北田公園
6	10月 5日（金）	・視察後の意見交換について
7	10月22日（月）	・調査研究結果報告書(案)について
8	11月13日（火）	・調査研究結果報告書(案)について
9	11月22日（木）	・調査研究結果報告書(案)について
10	11月29日（木）	・調査研究結果報告書(案)について

4 調査研究結果

(1) 国内視察調査

エコパスタジアム（静岡県袋井市）

【施設概要】

開催した主な大会 2002 FIFAワールドカップ、2003わかふじ国体、
2006ねんりんピック静岡開会式など

施設規模 延床83,278.69m²、トラック400m×9コース、フィールド107m×72m

収容人員 50,889人（固定：45,653人、可動：5,236人）

観客席 2層式スタンド 竣工 2001年3月26日

特徴 大屋根で固定スタンドを覆うことで快適な観覧環境を提供

【評価】

- 動く歩道や観覧席の勾配、車いすにやさしい点、ユニバーサルデザインを採用している点など、幅広い年代に配慮した施設と感じた。
- JR愛野駅と掛川駅の両駅を利用でき、さらには高速道路ICから近く、乗用車でアクセスしやすい。
- FIFAワールドカップや国体などのイベントを開催した経験は強みである。
- 第一種陸上競技場を備えている点は、稼働率の面からすると強みである。
- 観客席とピッチの距離については、豊田スタジアムの優位性を感じた。



スタジアムの歴史を刻む
エコパスポーツミュージアム

【意見】

- 園内道路を利用して駅伝大会を行っているとのことであり、一般道路を使いにくいう地域の実情を理解したい取組である。



- 施設内にミュージアム（記念品展示）があると、来場者の興味を引く。
- 施設駐車場は4,000台を確保しており、非常に多い。
- 本市では、今後の中央公園整備において、駅やスタジアム、スカイホールとスタジアムをもっと身近に感じることのできる工夫をし、一つのエリアとして考える必要がある。

陸上トラック400mを9コース設置。

第一種公認陸上競技場の認定を受けている。

釜石鵜住居復興スタジアム（岩手県釜石市）

【施設概要】

経緯 建設場所は、元々小・中学校があった場所で、東日本大震災の際に、児童・生徒らは迅速に避難ができ、犠牲者は出なかった。校舎は水没してしまったが、この跡地をかさ上げした所にスタジアムが建設されている。

施設規模 敷地面積 9ha、耐震性貯水槽 1基、耐震性貯留槽 1基
メイングラウンド 約11,000m²（約130×80m・天然芝）の球技専用
スタジアム

収容人員 6,000人（大会時には仮設含めて16,000人収容）

【評価】

- 非常にコンパクトなスタジアムで、背伸びをせずに足りない部分は仮設で対応といった考えは素晴らしい。
- 他自治体から寄付を受けて「絆」シートを設置している点など、予算をかけずに工夫している。
- 開催都市への立候補については様々な市民意見、議会の意見があった中で、最終的には立候補、決定となった。釜石市は2度目の視察となるが、以前の状況から、ここまで取組が進んできたことは素晴らしい。県・市の共催自治体として、ハングリー精神を感じた。
- 来訪者に対して、県内の温泉地を宿泊施設とし、観光と連携させている点はよい発想である。
- 災害時に発生した材木や地域材を利用して、倉庫やトイレを整備している点は復興の視点から効果のある取組である。



メインスタンドからピッチを望む

【意見】

- レガシーの一つの形として5万円以上の寄付を行うとスタンドの座席に名前を入れてもらえる取組は興味深い。
- 集客施設とアクセスは切り離せない。豊田市でも検討すべき課題である。



平成30年8月にオープニングを迎えたスタジアムで説明を受ける



釜石市内のファンゾーン予定地を視察

仙台市七北田公園（宮城県仙台市）

【施設概要】

公園種別 総合公園（健康運動公園）

施設規模・内容 面積 22ha、園内にはスポーツ施設としてJリーグ基準に準拠するユアテックスタジアム仙台や体育館、野球場、テニスコートが整備されているほか、都市緑化ホールや遊具など、幅広い層が楽しめる公園となっている。

【評価】

- 併設駐車場の台数は少ないが、2つの駅に挟まれており、アクセスは非常によい。
- 東日本大震災後の雇用施策として管理作業者を増やして対応しており、綺麗に管理されている。しっかり管理することで、来訪者が気持ちよく訪れ、利用者が増えることにつながる。
- 園内に様々な施設がある中、複数の指定管理者でしっかり運営されている点は素晴らしい。
- 公園内のおしゃれなカフェの運営、メニューの充実等はリピーターの確保、収益確保につながる。
- 園内にある体育館のアリーナには隣の利用者から見られない仕切りネットが設置されており、利用者に対する配慮を感じた。



ベストピッチ賞を受賞している
ユアテックスタジアム仙台

【意見】

- 公園については「作ったから行こう」ではなく「行きたくなる公園」というのが重要である。
- 公園のコンセプトとして、「健康総合公園」を明確に打ち出している点は分かりやすい。
- スタジアムのような大型公共施設は10年、20年に一度は手を入れていかないと老朽化が進むことを念頭に、計画的な予算確保をしていく必要がある。



園内には緑に関する講座などを行う
緑化ホールも設置



園内に併設されている開放的な
雰囲気で人気のカフェ

(2) 執行部との意見交換

執行部から、「ラグビーワールドカップ 2019™大会に向けて」、「中央公園第二期整備について」現段階での取組状況の説明を受け、質疑応答を行った。

ラグビーワールドカップについては、主に大会期間中のファンゾーン計画や県外・県内からの来場者対応、メイン駅となる名鉄豊田市駅からスタジアム・ファンゾーンへの来場手段、その他、海外メディアの招聘やトップセールスによる海外誘客策、多くの応募のあったボランティアについてなどがテーマであった。

また、中央公園第二期整備については、当計画の整備の必要性や整備検討区域案、また現在若手職員が中心となって、多くの市民や関係団体から聞き取りを行っている意見聴取状況、今後の事業スケジュールについて説明が行われ、活発な質疑応答、また意見が出された。(主な意見は以下の通り)

【ラグビーワールドカップに向けて】

ファンゾーンは営業日でなくとも開放して、市民の目に触れるような運営を考えてほしい。

開幕戦から豊田市開催の第一試合までの土・日曜日を、前夜祭的にイベントを行うと盛り上がると思う。

【中央公園第二期整備】

市民パワーを使っての維持管理方法に加えて、稼いで維持管理の負担を少なくする考え方必要。新たな手法を検討し、他にない公園を作ってほしい。

計画の中にマーケティングや維持管理費に対する考え方を入れておくべき。

将来に渡って市民の皆さんに使ってもらう公園とするため、公園のコンセプトをしつかり具体化させておく必要がある。

(3) 歴代正副委員長意見交換会

この特別委員会の4年間の活動総括を行うために、歴代の正副委員長による意見交換会を行った。この特別委員会の設置目的、過去3年間の提言、行政視察の内容などを振り返りながら、提言や特別委員会に対する意見など、多くの意見が出された。(主な意見は以下の通り)

- ①来期、改選後のラグビーワールドカップへの関わり方を、今年度の正副議長を中心に、現体制の中で方向性を出すことで、新年度すぐに活動することができる。
- ②平成27年度から平成29年度まで海外視察を行った。グローバルな視点での調査研究には有効であったと感じる。
- ③今年度は、県内市町村議会へのPR活動を始め、市議会として自ら活動することができた。今後もこういった議会自ら活動することは重要と感じた。
- ④特別委員会などで、市議会として提言を行ってきたが、それに対する回答・取組等が目に見えない。提言を行った後の仕組み作りが必要ではないか。

5 市議会としてのラグビーワールドカップ2019TM大会に向けたPR活動について

(1) 県議会、県内市町村議会へのPR活動

今大会が愛知県・豊田市の共催であり、県内全体で大会に向けて盛上げていく必要があるとのことから、市議会として県内の全市町村議会を訪問することが決定された。

6月21日から7月4日にかけて、特別委員会委員を中心に、豊田市議会として県議会、県内の全市町村議会へのラグビーワールドカップ2019大会のPR活動を行った。

訪問先では、直接議長・副議長の皆さんに、豊田スタジアムで開催されるラグビーワールドカップをPRし、どの議会でも県内全体での盛り上げに向け、前向きな姿勢であった。

【活動内容】

訪問日：6月21日～7月4日のうち11日間

訪問先：愛知県議会のほか、名古屋市会を始め県内の53市町村議会

豊田市議会延べ参加議員数：50人



豊田市議会議長・特別委員長が県議会を訪問し、県議会議長・副議長と面談

(2) 豊田スタジアムでのイベント時におけるPR活動

豊田スタジアムで行われた6月17日の愛知・豊田ラグビーフェスタ四大学交流戦、9月1日のラグビートップリーグ開幕戦において、来場者へ、2019年のラグビーワールドカップ大会公式チケット販売などのPRを行った。

いずれの実施日も用意したチラシ・グッズ等はすぐに配布を終了し、来場者の関心の高さを伺うことができた。



PR活動を行う議員

(3)「ギネス世界記録に挑戦！目指せ 2019人スクラム」への参加

9月23日、産業フェスタにおいて、豊田商工会議所青年部主催の「ギネス世界記録に挑戦！目指せ 2019人スクラム」が行われ、市議会としても23名の議員が参加。当日は秋晴れのもと、多くの市民・関係者が参加し、結果2,586人でのスクラムが認められ、ギネス世界記録が達成された。



ギネス世界記録認定証

6 提言

(1) 平成30年度の提言

本特別委員会の設置目的と過去3年間の提言(12ページ参照)を踏まえ、平成30年度の調査研究結果として、3つの調査研究事項から以下の通り提言する。

■調査研究事項1

ラグビーワールドカップ™大会後のスタジアム活用策（レガシー）

①中心市街地とつながる中央公園整備

現在、本市では駅前を中心に都心環境計画、矢作川の水辺プロジェクト、さらには新博物館整備の計画など、中心市街地及びその周辺で複数の計画が進んでいる。そこで、中央公園だけの視点ではなく、これら中心市街地等で進む複数のプロジェクトとつながるような中央公園整備が必要であり、さらに取組を加速させなければならない。

なお、訪れた人たちが多目的に利用でき、駐車場や休憩スペース、物販・飲食施設などをそろえ、コンセプトを明確にすべきであると考える。

②スタジアムの歴史を伝える・見せるための取組

2001年に完成し、サッカーでは名古屋グランパス、ラグビーではトヨタ自動車ヴェルブリッツのホームスタジアムでもある豊田スタジアム。今までにFIFAクラブワールドカップ、キリンチャレンジカップなど、またラグビーにおいては日本代表戦や国際親善試合なども行っており、それらの関連グッズ、そして来年のラグビーワールドカップ関連資料等を展示し、試合がない時でも訪れてもらい、楽しめるための仕掛けづくりが必要である。

③大会後を見据えた取組

大会期間中、来訪者へのおもてなしを目的に駅前一帯に設置される「おもてなしエリア」。この駅前一帯の利活用を、大会後も継続して取り組むことで、まちのにぎわい、さらには豊田スタジアムまでのルートのにぎわいづくりにもつながる。

また、多くの市民の皆さんに、この「おもてなしエリア」に来てもらうことはもちろん、もてなす側（独自ボランティア等）としても関わってもらうことで、ボランティアがずっと活躍・輝けるまちに変わって行く事が期待できる。

■調査研究事項2

ラグビーワールドカップ2019™大会に向けたさらなる機運醸成策

①民間との連携、協力、共働による取組

本市でラグビーワールドカップが開催されることが決定してから、様々な取組を行ってきたこともあり、大会に向けた機運は確実に高まっていると感じている。

大会まで残り1年を切った中、民間との連携、協力をより密にし、盛り上がりに向けた取組を行う必要がある。例えば、今年9月に豊田商工会議所青年部が中心となって行った「ギネス世界記録に挑戦 2019人スクラム」企画は、多くの市民が自ら参加・体験できるイベントとして、非常に効果が高かったと感じる。

②SNSの活用と市内・市外に向けたさらなるPR

現在でもホームページやSNSでの情報発信は行われているが、SNSの双方向性の強みを活かし、豊田市独自サポーター登録ができるような仕組みを構築することで、豊田市に興味のある人向けに豊田市情報を発信したり、市の独自ボランティアを募集したりすることで、大会後にはこの流れを活かし、様々な形で市民がボランティアにもっと簡単に参加できる仕組みができることで、大会に向けた盛り上がりにもつながると考える。

また、名鉄豊田市駅の他、市内で乗降者数の多い駅や豊田市に向かう乗換駅、名古屋駅などでもポスター掲出などで広くPRすることに加え、大会までに行われる市内イベントなどで試合国、関係国の物産展やPR企画を実施することで、今までラグビーに興味のなかった人たちに対してもアピールの機会となると考える。

③おもてなし体制の構築とアピール

この機会を活かし、「おもてなし」の体制をしっかりと整え、世界中からの来訪者をお迎えすることは、「世界の豊田市」として世界にアピールする絶好の機会である。

加えて、ツーリズムとよたと連携することで、より幅広い層に対して、新たな豊田市ファンを作ることにもつながると考える。

■調査研究事項3

特別委員会の4年間の活動総括

①これまでの提言の振り返り

市議会として、2019年のラグビーワールドカップに向け、平成27年度に「豊田スタジアムを生かしたまちづくり特別委員会」を設置し、4年間の調査研究を行ってきた。今年度の提言に加え、平成27年度から平成29年度の特別委員会の提言を参考に後述している。大会まで残り9か月という時期ではあるが、今一度特別委員会の提言を見直し、ぜひとも取組を進めてほしい。

②継続して調査研究を行う特別委員会の必要性

現在、市では中心市街地整備（駅前広場等）、矢作川の水辺、中央公園整備、さらには新博物館など、豊田市の顔である中心市街地及びその周辺で、いくつものプロジェクトが進められている。これらのプロジェクトと既存のコンサートホール・能楽堂や、中央図書館、美術館などと連携を図り、どうまちづくりにつなげていくのかと言った視点で、複数年にわたり、継続して調査研究を行う特別委員会が必要であると考える。

③市議会自らが動くこと

平成30年度は、市議会として県議会や県内の全市町村議会へPR訪問を行ったほか、スタジアムでのイベント時にチラシ配布などのPR活動、ギネス世界記録挑戦への参加協力など、議会自ら活動を行い、参加した議員全員が手ごたえを感じた。

今特別委員会のような市としての大きなテーマに対して、議長をトップに全議員が活動を行うことは非常に重要であると感じる。今後の特別委員会などをを中心に、市議会全体でこういった活動はぜひ継続をしていく必要がある。

(2) 平成27年度から平成29年度までの提言

年	提言内容
平成27年度	(1) 市として、大会成功に向けて取組むための府内推進体制の更なる強化
	(2) 日本全国での開催自治体12都市の連携強化
	(3) ファンゾーンに対する効果的な取組
平成28年度	1 国際都市 豊田市としての顔づくり (1) ファンゾーンにおける豊田市らしさを生かした取組 (2) 中心市街地エリアの整備促進 (3) 中央公園(豊田スタジアム)まで楽しく歩けるルートの整備
	2 来訪者を迎えるためのおもてなし (1) 官民連携での取組体制の構築 (2) 豊田市内の観光資源の有効活用
	1 多くの人を呼び込むための戦略 (1) 近隣スタジアムと連携を密にして大会開催都市間の回遊を促す取組 (2) アンケートやアプリを活用した来訪者意見の吸い上げによる“豊田市磨き”
	2 来訪者を迎えるための環境整備 (1) 豊田スタジアム周辺の道路施設等整備及び先進的な移動支援(FCVバス、Ha:mo、 ウィングレット等)を活用した渋滞対策 (2) 駅からスタジアムまでの動線のインフラ(トイレ等)整備及びカフェや物販店舗の参入の推進
	3 大会期間中の交流、おもてなし (1) 豊田スタジアムでの試合開催国の食生活や豊田市の地元食材を通じた交流機会の創出とSNSなどを活用したPRの強化 (2) ボランティア研修及び地域を巻き込んだおもてなし資質の向上
	4 大会を契機としたまちの魅力向上 (1) インバウンドにつなげる文化歴史、最先端技術を活用した観光の産業化と産業交流の創出 (2) 国内外へわがまちアスリートや伝統文化などのPRを通して人材の育成や発掘による地域の活性化
	5 大会を契機とした効果、施策 (1) 大会ボランティアが今後も活躍できる体制の構築 (2) スタジアムの更なる活用による稼働率の向上と市民の憩いの場の実現

7 おわりに

「豊田スタジアムを生かしたまちづくり特別委員会」は、平成27年（2015年）5月に設置されて以来、来年開催されるラグビーワールドカップ2019TM大会を契機としたまちづくりについて、約4年間継続して調査研究を行ってきました。

過去3年間において国内9都市における行政視察、5カ国の海外視察を実施するとともに、行政機関や関係諸団体と度重なる意見交換をし、年度ごとに政策提言を行ってまいりました。

今年度においてもエコパスタジアム（静岡県袋井市）、釜石鵜住居復興スタジアム（岩手県釜石市）、仙台市七北田公園（宮城県仙台市）を行政視察したほか、市議会として行った県内市町村議会へのPR活動、大会成功に向けての市民意識の高揚や機運の醸成のためのイベントにも積極的に参加してきました。

提言としては、大会に向けたさらなる機運醸成の提言、大会後のスタジアム活用策（レガシー）や中央公園構想策定における提言等をまとめました。いよいよ本番となるラグビーワールドカップ2019大会を成功に導くことはもちろん、それを単なる一過性のイベントで終わらせることなく未来のまちづくりに繋げることが重要であります。

大会成功に向けては、市議会改選の空白を生むことなく、議会が一丸となって取り組むための準備をすべきであると考えます。また豊田スタジアムの利活用だけでなく、中央公園整備構想、矢作川水辺プロジェクト、駅前広場整備計画、駅前通りのモール化、新博物館構想などを含め一体となったまちづくりが必要であり、議会としても引き続き調査研究することが重要であると考えます。

また3カ年にわたる海外視察を実施できたことは非常に有意義であり、ラグビーワールドカップ2019大会、2020東京オリンピック・パラリンピックを契機としたまちづくりのみならず、様々なまちづくりについての提言に結びつきました。海外における先進事例を調査研究することが本市の発展、市民福祉の向上につながるものと確信いたしました。

最後に、4年間にわたり行政視察を受け入れていただいた自治体、調査にご協力をいただいた関係諸団体の皆様と、歴代の正副委員長をはじめとする委員各位のご努力に感謝申し上げ、結びといたします。